



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



日本ESD学会

The Japanese Society of
Education for Sustainable Development

全国ESDコンソーシアム／ステークホルダー円卓会議2025

日本ESD学会報告



呼びかけ人（設立総会にて）

学会長 市瀬 智紀

（宮城教育大学教授）



E S D（持続可能な開発のための教育）は、人類が発展的に持続可能な社会を実現するための価値観や行動を生み出す変容の教育です。S D（持続可能な開発）の課題は環境、経済、社会が相互に関連する複合的なものでありますから、E S Dの研究も必然的に様々な専門領域の実践と結合した複合的研究であることが求められます。特に、様々な実践と結んだ情報交換と理論研究、総合的・学際的・俯瞰的な研究が必要です。

E S Dは持続可能な社会を創造することを目指す教育ですから、学校、市民、企業、行政など多様なステークホルダーが世代を超えて連携し、その活動を継続的に発展させることが不可欠であり、実践者の経験をベースにした研究の深化と、研究成果を活かした実践が必要です。私たちは持続可能な社会の構築に資することを目的として、教育者、研究者、企業、行政、市民、学生がその立場や分野を越えて協働する「日本E S D学会」を2017年4月に設立しました。

お問い合わせ [日本E S D学会事務局]

〒980-0845

宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149 番地

宮城教育大学 市瀬研究室

TEL/FAX 022-214-3381

E-mail jsesd.office@gmail.com

ウェブサイト <http://jsesd.xsrv.jp/>

※ 入会に関するお問い合わせは、ウェブサイトをご覧ください。

日本E S D学会

Japanese Society of Education
for Sustainable Development

E S Dの理論的・実践的研究と
E S D実践の深化・発展を目指し、
教育関係者、研究者、企業、
行政、N P O・N G O、市民、学生など、
多様な立場の人々が協働する新しい学会、
それが日本E S D学会です。

SUSTAINABLE GOALS

世界を変革するための17の目標



2015年9月の国連持続可能な開発サミットにおいて、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、17の目標と169のターゲットが示されました。この17の持続可能な開発目標全体の達成に参加・参画する人材の育成を担うのが、E S Dです。

組織

1. 会長・副会長

会長：市瀬智紀

副会長：岩本渉、佐藤真久

2. 理事

理事：鈴木克徳（総務）、河本大地（渉外・広報）、
藤原一弘（行事・企画）、河野晋也（編集）、大島順子
（会計）、浅井孝司（国際）

会計監査：辰野まどか、飯田貴也

事務局長：鈴木里佳子

3. 評議員

浅井孝司、新宮濟、岩本渉、及川幸彦、大島順子、大西浩
明、河野晋也、加藤久雄、河本大地、小玉敏也、小林亮、
佐藤真久、重政子、柴尾智子、進藤由美、鈴木克徳、
棚橋乾、永田佳之、中澤静男、中澤哲也、二ノ宮リムさち、
藤原一弘、見上一幸、松倉紗野香、安田昌則

教育機関

次世代を担う子どもたちへの教育に携わる全ての学校、ESDを実践・推進する教育機関—

- ・小学校、中学校、高等学校、大学
- ・市民教育を行う公民館
- ・博物館、美術館、資料館 etc.

研究者・教育者

大学や研究機関でSDやESDについて研究されている方、学校等の現場でESDを実践されている先生方—

- ・ESD研究者
- ・これからの教育に関心のある研究者
- ・ESDの実践研究者としての学校教員
- ・学芸員等、社会教育施設の職員 etc.

企業・メディア

社会に大きな影響を与える立場として、社会や地域に貢献したいと考える企業・メディア—

- ・CSRやCSVに取り組む企業
- ・社会をよくするために活動する企業
- ・地域のニュースを伝えるローカルメディア
- ・ESDに関心のあるメディア etc.

“ESD”を核として 様々な立場の人たちが、出会い、つながり、深め合う場所——それが日本ESD学会です

学生・市民

社会の構成員として、持続可能な社会・地域の実現に貢献したい方—

- ・教員を目指す学生、SDを探究する学生
- ・食や農に関わる個人
- ・表現することに関心のある方
- ・働きがいを作りたい方 etc.

市民団体

持続可能な社会の創造を目指すNPO/NGO法人、教育や子どもたちと関わりのある市民団体—

- ・自然保護や環境教育等に取り組む団体
- ・文化財保全や継承に取り組む団体
- ・国際協力や平和の構築に取り組む団体
- ・子どもの貧困問題等に取り組む団体 etc.

行政・地域

公の立場からESDの実践や普及に努める行政組織や、地域課題に取り組むローカル組織等—

- ・教育委員会
- ・自治体の環境、農政、保健、福祉、観光、消費等の担当部門
- ・地域課題に取り組む住民グループ etc.

日本ESD学会が目指す、持続可能な社会へのステップ——

出会う

- ・ESDに関心のある様々な立場の人が出会う
- ・ESDに関する情報交換や意見交換がなされる

研究会 シンポジウム 実践交流会 研修会

つながる

- ・ESDに関わる様々な立場の人や組織がつながる
- ・ESDに関わる様々な“テーマ”がつながる
- ・ESD実践の現場と理論研究がつながる
- ・プラットフォームが形成される
- ・協力体制が構築される
- ・協働プロジェクトや共同研究が生まれる

深まる・広がる

- ・互いに議論し刺激を受けることで、ESDの質の向上や活動の広がりにつながる
例：地域研究 × 防災教育 × 環境教育 ⇒ 被災地の未来を考える教育
- ・現場で行われているESD実践が理論研究に基づいたものになり、また研究も現場と結びついたものへと深化する
例：世界遺産教育 × 文化遺産研究者 ⇒ ESD実践の深まり
- ・ESDを核として様々な人が協働することで、社会や地域の課題解決に貢献する
例：観光業従事者（旅館・代理店等）× 観光NPO × 研究者 × 学校 ⇒ 地域の魅力が伝わるサステイナブルツーリズム



日本ESD学会発足の歴史

- 2015年7月4日にユネスコパートナーシップ事業「教員研修プログラムの在り方に関する調査研究」の検討会が奈良教育大学で開催された機会に、「日本ESD学会」設立に向けた意見交換の場をもちました（約30人が参加）。
- DESDが最終年を迎えGAPの方向性による新たなESD展開の必要性が確認され、実践者と研究者が協働する学会の設立が急務であることが大勢の意見でありました。
- その後、意見交換の場に出席されなかった方々にも相談をした結果、ESDの内容や活動の進め方についても微妙な考え方の違いがあることも見えてきましたが、最優先課題として、実践者と研究者が対等の立場で切磋琢磨する学会の設立が急務であると判断し、「日本ESD学会」の設立を準備することとしました。
- 2016年
 - 5月14日 - 設立に向けた第1回意見交換会が奈良教育大学でおこなわれる。
 - 7月16日 - 設立に向けた第2回意見交換会が宮城教育大学でおこなわれる。
 - 7月16日 - 設立に向けた第3回意見交換会および設立準備会が立教大学でおこなわれる。
- 2017年4月29日 - 設立。



日本ESD学会 会員の状況

現在の会員数情報	
会員区分	会員数
正会員	375名
学生会員	49名
団体会員	17名
賛助会員	
合計	442名

合計	442
東京都	98
神奈川県	33
奈良県	33
大阪府	30
福岡県	24
宮城県	22
千葉県	20
兵庫県	18
京都府	16
愛知県	13
岡山県	13
広島県	10
その他	112

「ESD研究」最新号「第7号」目次

巻頭言：任期2期4年間を振り返って（総括）○見上 一幸・・・・・・・・・・ 1

特別寄稿：「日本・台湾小中学校 ESD/ 環境教育シンポジウム」の報告○浅岡 永理 & 小玉 敏也・・ 5

特集 ユネスコ新教育勧告 2023

- 基調報告 「平和、人権および持続可能な開発のための教育に関する勧告」
～ ESD にとっての意義と諸課題～○永田 佳之・・・・・・・・・・ 8
- 基調報告 ユネスコ教育勧告と気候変動教育
これからの日本の気候変動教育に必要な視点とは○高橋 敬子・・・・・・・・ 15

原著論文

- 環境負荷低減化のための食行動に関する大学生の意識
—宮城県内の大学生を対象としたアンケート調査—
○谷津 裕子・小地沢 将之・山田 志枝・山本 文枝・相澤 美里・阿部 希望・・・・・・・・ 19
- ESD としての平和教育実践—戦争の未然防止に焦点をあてた「戦前責任」に着目して
○河野 晋也・清原 美優・竹田 光陽・八木 翠・森竹 啓介・内田 昭利・・・・・・・・ 29

総説論文

サステナビリティ・コンピテンシーの概念枠組みと指標の検討○佐々木 織恵・水島 侑香・・ 39

研究ノート

- 大分県における防災教育を担う教員の現状と課題
—防災教育コーディネーターへの質問紙調査から—○村田 翔・・・・・・・・・・ 49
- 生物多様性研修による小中学校教員の意識変化○近藤 美麻・丸山 勇氣・山本 義彦・・ 57

実践ノート

- 学外の社会人とのやりとりが学生に及ぼす意識変化と実務能力における影響
—大学における学生の環境活動の事例として○岡山 咲子・・・・・・・・・・ 67

報告

- 山岳域の持続的発展と観光に関する第2回国際会合での教育セッション立ち上げ
○上野 健一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73
- グローバル企業の社会教育プロジェクトと連携した高等学校における ESD プログラムの実践
○建元 喜寿・吉田 賢一・山崎 遊・薄羽 美江・・・・・・・・ 79

大会・総会報告

- 日本 ESD 学会 第6回大会報告○藤原 一弘・・・・・・・・・・ 85
- 日本 ESD 学会 令和4年度 信州 ESD 成果発表&交流会○水谷 瑞希・・・・・・・・ 89
- 「食文化フォーラム in 庄内」○見上 一幸・・・・・・・・・・ 93
- 日本 ESD 学会 第7回近畿地方研究会○西口 美佐子・・・・・・・・ 98
- 日本 ESD 学会 2024 年度総会報告○市瀬 智紀・・・・・・・・ 105

資料解説

「ESD-Net 2030 グローバル会合」に参加して○神田 和可子・・・・・・・・ 106

書評

- 湯本浩之・西岡尚也・黛京子(編集)『SDGs時代の地理教育:「地理総合」への開発教育からの提案』
○松倉紗野香・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
- 木村裕(編著)『中学校 全教科・教科外で取り組むSDGs—ESDの実践づくりの要点とアイデア』
○阪上弘彬・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
- 田中治彦(著)『新 SDGs 論—現状・歴史そして未来をとらえる』○伊藤裕康・・・・・・・・ 114

『ESD 研究』第8号投稿募集について・・・・・・・・・・・・・・・・・・

会則・学会誌各種規程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

学会誌編集委員会委員・編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・



最近の学会主催イベント

- 2025年8月23日・24日：日本ESD学会第8回大会（愛媛大学）
- 2025年1月11日：日本ESD学会第8回近畿地方研究会（奈良教育大学）
- 2024年8月17日：日本ESD学会第7回大会（東京の星陵会館）
- 2024年1月7日：日本ESD学会第7回近畿地方研究会（奈良教育大学）
- 2023年12月15日：日本ESD学会ESD地域研究会（食文化教育フォーラム in 庄内）
- 2023年8月19日：日本ESD学会第6回大会（東京の星陵会館（対面））
- 2023年3月18日：日本ESD学会第6回近畿地方研究会（奈良教育大学）
- 2022年11月12日・13日：日本ESD学会第5回大会（オンライン）
- 2022年3月6日：日本ESD学会第3回四国地方研究会（愛媛大学・オンライン）



SDGsの授業づくりの支援のために 構造化学習ユニットの開発

- 構造化学習ユニットの紹介
 - [構造化学習ユニットの紹介映像 \(15分バージョン\)](#)
 - https://www.youtube.com/watch?v=6_KXfF40uSY&feature=youtu.be
 - [構造化学習ユニットの紹介映像 \(2分 短縮バージョン\)](#)
 - <https://www.youtube.com/watch?v=jPSpCQ06JO8&feature=youtu.be>
- コンテンツ一覧
 - [SDGs講座「知識編」佐藤真久（東京都市大学大学院）](#)
全体像がつかみにくいSDGsについて、国際会議等の議論の現場を経験した講師が、対話形式でわかりやすく解説したミニ動画集。SDGsについて、これまであまり意識をしたことがなく、学ぶ機会がなかった大学生や社会人の視聴をイメージして作成。
 - [SDGs講座「地球社会編」湯本浩之（宇都宮大学）](#)
単発におわりがちなアクティビティが、効果的に練り上げられ配置されたワークショップ型授業の計画書。運営上のこまやかな配慮や、開発教育の専門家の視点から作成した参考動画リストも充実。SDGsが専門でなく、ワークショップ型授業に慣れていない大学教員・高校教師の活用をイメージして作成。
 - [SDGs講座「実践編」河野晋也（大分大学）](#)
小学校の現場経験豊富なエキスパートによる、子どもたちの反応を見ながら授業を展開するスタイルの授業計画書。問いかけや声かけ例、事例選びのコツ、各回の実物スライド（ppt）が提供されている。SDGsに関して、身近な事例を用いながら、子どもたちを「ゆさぶる」授業に関心のある小学校教師の活用をイメージして作成。
 - [各種資料](#)



SDGsの授業づくりの支援のために 構造化学習ユニットの開発

1. SDGsを専門とする先生が、ある日の「授業の計画」についてある構造にのっとして「テキスト」で記述したものです。そのため、必要なところを少しだけピックアップして活用することが可能です。
2. その授業を実施する際に「留意点（コツ）」・「流れ（時間配分・展開）」・「発想」等が「話し言葉」で書き添えられています。
3. その授業を実施する際の使用する「素材（ネタ、スライド、画像、動画、参考文献リスト等）」が提供されています。
4. それぞれの「授業の計画」の特徴（=型）の分析を確認できます。
5. jsonエディタの開発とjsonによる構造化学習ユニットの実装が確認できます。



会員専用マイページ

日本ESD学会会員になると、会員専用マイページが付与されます。こちらをクリックしてください。会員同士の情報交換が可能で、便利な会費納入機能もついています。



学会誌『ESD研究』

日本ESD学会では、学会誌『ESD研究』を発行しています。こちらをクリックしてください。『ESD』研究はJ-Stage掲載の査読付き学術雑誌です。



Facebookページ

日本ESD学会では、Facebookを運用しています。こちらをクリックしてください。ESD関係の研究会や公募、イベント情報などをFacebookでシェアしましょう。

サイト内検索

検索

日本ESD学会事務局

〒9800845 仙台市青葉区荒巻字青葉149 宮城教育大学 市瀬研究室
気付

jseud.office@gmail.com

年会費 正会員5,000円、学生会員3,000円、団体会員20,000円、賛助会員 1口50,000円（2口以上）です。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



日本ESD学会

The Japanese Society of
Education for Sustainable Development

ご清聴ありがとうございました

<https://jseesd.xsrv.jp>

<https://www.facebook.com/ESDgakikai/>